

採用企画「リサイクルの心を広めよう PROJECT」

(代表者 田畑公大)

企画概要

Volunteer Team CSA の中で新たに立ち上げた RePT(Recycle Project Team)で、身近で取り組みやすいをコンセプトに、ペットボトル本体とキャップの分別作業を通じて、リサイクルの啓発活動のため、応募致しました。

ペットボトル 持ち運びや保存の良さ、またはデザイン性の良さなどにより、缶やビンといった容器より、需要が年々高まっています。それに伴い、ペットボトルはリサイクル方法が確立されてきましたが、キャップは注目されておらず、可燃ごみとして処理されているのが現状です。

そこで、ペットボトル本体のように、キャップを分別して何かに使えないかと考えました。調べるうちに、ペットボトルのキャップを主な原料として、エコマウッドという建材を作り出しているエコマ商事という企業を知りました。

エコマウッドとは、廃プラスチック（ポリプロピレン）などを材料にした、リサイクル率ほぼ 100%の完全再循環型の建材です。利点は吸水率 0%で腐らず、水に浮くほど軽く、加工しやすい、などです。この性質を利用して、水上ピオトープや浮き桟橋、屋外ベンチ、デッキなどに使われています。また、木のような模様、材質ですが、ささくれや棘（とげ）がでないので、幼稚園でも使われています。

原材料であるキャップを集め、エコマウッドでできたベンチを学内に設置することにより、リサイクルの有用性を、目に見え、手で触れる形で、うったえようと考えました。

Volunteer Team CSA の中で新たに立ち上げた RePT(Recycle Project Team)で、身近で取り組みやすいをコンセプトに、ペットボトル本体とキャップの分別作業を通じて、リサイクルの啓発活動をしました。具体的には、学内でキャップを収集し、エコマ商事にそのキャップを送り、ベンチを作ってもらい、学校に設置することで、目に見え、手で触れる形で、リサイクルの有用性をうったえるといったものです。

しかし、交渉がうまくいかず、いろんな角度から考慮してみた結果、断念することになりました。

そこで講演会に参加、または資料を用いながら、環境問題やリサイクルについての勉強し、企画の方向転換することを決めました。

方向転換後の活動

MY 箸づくり（8月4日）

この企画は方向転換前の企画です。

（趣旨）割り箸は年間 250 億膳も大量消費されます。そこで、小学生を対象に、桜の木からお箸を作ってもらおうと考えたのが、この企画です。自分の箸を手作りに作ることで、愛着がわき、大切につかうだろうと思いました。また、小さい頃から環境問題に対する意識を持っていただくことで、これからの世代の意識改革に繋がると思いました。

同時に楽しくリユースについて感じてもらうことが主な趣旨で、休憩時間には、環境に対するクイズにチャレンジしてもらいました。

（結果）参加者は小学生が 10 名です。雰囲気は終始賑やかで、クイズの時間には、子供達が必死に考えてくれている様子うかがえました。意外にも環境問題に関心があり、驚き、同時に、小学生の頃から環境問題に意識があるということがうれしかったです。完成した箸は、それぞれ持ち味があり、子供達も「はやく使いたい」と言っていました。ただ、塗料の関係上、1 日置かなければいけないと説明したところ、とても残念そうな顔をしていたのが印象的でした。

エコについての学習会（2007 年 10 月 8 日）

（趣旨）環境問題・改善についての知識の向上、大切さを知っていただこうと思い、地域の方を交え、茶話会を開きました。

（結果）参加者は産大の学生 3 人。リサイクルからリデュースへ方向性を変えわずか二週間という少ない準備期間ではあったが、内容も濃く、しばしば笑いもありの、良い企画になったと思います。10月9日の京都新聞にも取り上げられ、とても励みになる企画となりました。

部展（11月2.3.4日）サークル単位では今年で三回目となる部展です。

過去三回の中で入場者数が一番多く、アンケートにも答えて頂きました。何人ものお客様に声をかけていただきました。「ぜひまた来年も」という言葉をいただいた時は、本当に頑張った甲斐があったなあと、とても感激をしました。アンケートの内容も様々で、環境問題については、様々な視点があると、実感しました。

エコバッグづくり（12月1日）

（趣旨）いらなくなった古着から、エコバッグを手縫いで作ってもらうことにより、Reuse,Reduce、スローライフを体験してもらおうと思いました。

(結果)参加者は8名の予約がありましたが、当日にキャンセルをいただき、結局参加者は6名という結果になりました。裁縫に不慣れな方も夢中になり、みなさん、思い思いの作品を作っていました。また、参加者に、裁縫の得意なおばあちゃんおり、恥ずかしながら、逆に講師になって教えていただきました。そういった参加者との交流もでき、時間通りに無事エコバッグも完成しました。メンバーと参加者が知識を交換しつつ、笑いあいながらゆっくりと時間が進んでいき、とても良い企画になったのではないかと思います。また、前日に伏見の方でのラジオ番組にゲスト出演をし、企画の宣伝をすると同時に私たちの活動などの取材をされました。とても貴重な体験をすることができました。

まとめ

得たもの

責任感(今ある現状に向き合う)(最後までやりとげる。)

リーダーとして取り組む中でこれは本当に大切なことだと思いました。

組織でやることの大切さ、ありがたみ(一人では何もできない)

基本、自分でなんとかしようというところがあって他の人に任せないという癖がありましたが、やはり一人では限界があり、そのときに僕の頑張る姿を認めてくれた仲間がいろいろと助けてくれたときに本当に組織でやることの大切さやありがたみを感じました。

ネットワーク

青少年活動センター、学内のボランティアセンター、ラジオ局、他大学のサークルの方、地域の人(まだまだ浸透してはいませんが)など、今回の活動を通じていろんな人に出会えました。一つの財産となった同時にこれからの活動の基盤になったのではないかと思います。

リサイクルについての知識と価値観(完璧とはいえないが)

おそらく今回、ここまでこだわって調べていなかったら、一生知らなかったのかもしれませんが。良い勉強になりました。

大切なこと意識 無駄使いしてもリサイクルをすれば大丈夫という感覚

これは根本的な間違い

大事なことは”使わない”ということ。

今回でこれが本当に大切なことなのだと感じたと同時に一番伝えたいと思いました。

今後どのようにいかしていくか

まずは、リサイクルの知識、または箸作りやエコバッグ作りといった技術的なものといった土台ができたのではないかと思います。今回得たものを後輩に伝え、来年はさらに内容の濃い活動をしたいです。

また今後の生活(身近なことで言うと学校での生活、アルバイト、今始まっている就職活動、といった場面)でなんでもうまくいくことに越したことはありませんが、とにかくどんな形であれ、最後まで責任を持ってやりきる。失敗したからとそこで逃げたら、そこでおしまい。どんなに苦しくても今、ある自分の現状を受け止めなくてはならないのです。このような教訓を今後の生活でぜひ、いかしていきたいです。そしてこのあきらめない精神でいろんなことに挑戦していきたいです。

最後に(サギタリウスチャレンジについて)

サギタリウスチャレンジの応募した内容は残念ながら、失敗に終わりました。しかし挫折したからこそ、今回のサギタリウスチャレンジ受賞者の他の人とは、違うことを感じたり、得れたと思います。だから僕はこの失敗について自信を持って言えます。来年からはぜひとも失敗賞なども作って頂ければと思います(笑)。産大生にもっとサギタリウスチャレンジの事について知ってもらって、多くのチャレンジが出てくることにより、もっと産大は発展していくと思いました。最後に今回関わってくださった全ての人に感謝です。とても有意義な時間を過ごさせて頂きました。ありがとうございました。